

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 興味が膨らむ～ビオトープ～／北区立西が丘保育園

進級・入園と、新しい環境に「ドキドキ・ワクワク」の子どもたち…。自ら環境に関わり、探索したり、様々な気付きや発見をしたりする姿がそこかしこに見られることと思います。

今回は園にあるビオトープに、子どもたちが主体的に関わり、自分たちで掃除をし、そこで、新たな生き物を発見、興味をもって関わる事例「にしがくんの正体は？」をご紹介します。ビオトープが子どもたちにとって、身近で興味が膨らむ環境となる工夫がされています。



#### ○ 「にしがくんの正体は？」 5歳児

##### ✦ ビオトープにカエルが…

ビオトープにカエルの姿が見られるようになる（2月下旬頃）。カエルを発見すると、嬉しそうに眺めたり捕まえたりしている。その後、何十匹ものカエルがビオトープで産卵を始め、子どもたちもビオトープの周辺でその様子を観察している。カエルの様子を近くで見ようとビオトープに顔を近づけて覗き込んだり、重なっている2匹のカエルを引き離そうとしたりして触れてみたりしている。

##### ✦ 見えなくなったカエルの卵

ビオトープの水が黒っぽくなり、子どもたちは「卵が見えなくなった」と心配している。なかなか卵からオタマジャクシにかえらないことにも気付き、「オタマジャクシがないね」「どこに行っちゃったんだろう」と不思議に思っている。「水が汚いからだよ」「それにくさい臭いがする」と気付いたことを口々に言う姿が見られた。

##### ✦ 子どもたちと話し合う

なぜ卵もオタマジャクシも見えなくなってしまったのか、保育者も子どもと一緒に考える。そして、みんなでビオトープの掃除をすることになる。

「落ち葉とか花びらとかを取ったら？」「水も換えたほうがいいね」と子どもたちから意見が出る。掃除のイメージが具体化してきたところで掃除の手順を決め、さっそく取り掛かる。



##### ✦ ビオトープの底には？

「卵あるかな？」「オタマジャクシいるかな？」と探しながら水をすくい出していくと、徐々にビオトープの底が見えてくる。「わー！砂がこんなにたくさん！」と砂がビオトープの底に大量に入っていたことが分かる。

「こんなに砂があったらビオトープ汚れちゃうよね」「砂は入れちゃいけないのにね」「きっと小さい子が入れちゃったんだよ」とビオトープの様子から卵が死んでしまったのかもしれないと考える姿が見られる。

砂を全部かき出し、砂の下にあった土が乾くまで、水を入れずに乾かすことにする。



### ✦ 謎の生き物を発見

ビオトープを掃除してから何日か経ち、水を入れることにする。

そのように気付いた子どもたちは「水入れるの?」と、嬉しそうにビオトープの周りに集まってくる。ビオトープに水を入れてから、水の中に生き物を発見する。今までに見たことのない生き物に、子どもたちは興味を示し、「何かいるよ」と友達を呼び一緒に覗き込む。「なんだろう?」と不思議そうに見ている。「なんだか白くてユニユニしているね」「しっぽが長いよ」など謎の生物を見てその様子を伝え合っている。

もっと詳しく見るために、生き物をすくって虫眼鏡で観察し、図鑑を見て同じような生き物を探し、自分たちで調べようとしていた。



5歳児だけでなく小さい子も毎日ビオトープの周りに集まり、謎の生き物を興味をもって見たり、入れ物ですくったりする。何度取っても謎の生き物はいつの間にか増えている。保育者も初めて見る生き物で、調べてみたが分からない。

### ✦ 謎の生き物を飼ってみよう

5歳児が「謎の生き物を飼ってみよう」とペットボトルに入れ、クラスで飼う。「飼うなら名前を決めよう」という提案があり、保育園の名前から『にしがくん』になる。名前が決まったことで『にしがくん』への興味もさらに深まっていく。

「何を食べるんだろう?」と餌について考える。テントウムシやザリガニなどを飼っている経験から、「葉っぱを入れてみよう」「水はきれいにしたほうがいい」など、自分たちなりに考えて世話をする。ペットボトルに『にしがくん』を入れておくと、小さい『にしがくん』が増え、大きな『にしがくん』が動かなくなっていることに気付く。



### ✦ 保護者もにしがくんに興味をもつ

保護者から「『にしがくん』の正体が分かりました」「大きくなると羽が出てくる」という話を聞く。

更にインターネットで調べてみると、『にしがくん』の正体は「ハナアブの幼虫」だったことが分かった。ドブや下水溝の汚い水の中に住み、腐敗物を食べて育つこと、その後湿った土の中でハナアブになること、ハナアブはミツバチに似ている虫で空を飛ぶということが分かる。

水がきれいになったビオトープには『にしがくん』はいなくなる。

メダカや水草を入れ、また以前のようなビオトープになってきた。

子どもたちは、「メダカの赤ちゃんがいる」「タニシも大きくなってきた」などビオトープの生き物を興味深く見る。

みんながビオトープを綺麗にしたことで『にしがくん』がいなくなったことに気が付く。『にしがくん』がハナアブの幼虫だったことから今まで知らなかった虫にも興味が広がる。



## ✦ 振り返ってみると

- ビオトープの様子がおかしく、掃除をして綺麗にすることを、クラスみんなが共有していくことがきっかけになる。保育者は、子どもからの発信で始まったことを自分たちが主体となって進められるよう見守ることで、目的を達成するために場を整えたり、どうやって解決していくのか考えたりすることができた。
- 自分たちが興味をもったことに対して、思う存分調べたり試したりできる環境を整えていくことで、子どもたちの「やってみよう」という気持ちが育まれていることを実感できた。
- 自分たちの遊び場にビオトープがあることで、いろいろな生き物に興味をもつきっかけになっている。初めて見る生き物にも、子ども自ら「なんだろう？」と好奇心をもち、不思議に思い試したり、考えたりしようとする気持ちが育っている。
- 『にしがくん』との出会いを通して、生き物が生活するための環境について考えるきっかけになり、子どもたちもビオトープをきれいにしていくことの大切さを実感することができた。
- カエルやオタマジャクシ以外にも、身近にたくさんの生き物がいることを知ることができた。



無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」